NO ５３４　　令和５年１１月２８日(火)

3学年だより

夢の宅配便

3年学年主任
水野　喜代治

「世の風潮」

江戸時代の歌に、「白河の清きに魚も棲みかねてもとの濁りの田沼恋しき」というものがあります。幕府の政治を、任された田沼意次が商人と結びついた政策を行って、幕府の財政の立て直しを行いました。しかし、商人と政治が結びつき、幕府からの特権を受けるために商人からの賄賂が横行しました。田沼の後に政治を任されて、幕府の改革を行ったのが白河藩主の松平定信でした。彼は老中に抜擢され、寛政の改革を行いました。松平は風俗の取り締まりや、商人と政治の癒着を是正しました。この田沼の濁りと松平の清純を対比した歌が冒頭の歌になります。

卑怯なこと、邪悪なこと、欺きなどはあってはならない事ですがミスや過ちは犯さないようにしなければなりませんが、人である限りミスや過ちは完全になくすことはできません。ですから、ミスや過ちは、犯した後に誠意を持って正せば良いです。正直に過ちを認めて、正せば良いと思います。

しかし、最近の世の中の動きで、過ちやミスを許さない雰囲気を感じます。人は過ちやミスを犯すものです。ですからそれも許されないと言うことになると、ミスや過ちを無かったこととして隠蔽するようになると思います。こうなると表面的には世の中でミスも過ちも何もないように見えてきます。しかし、それは過ちやミスを隠していることにすぎません。マクドナルドで注文した商品と異なる商品を渡された客がひどく店員を責めていました。過ちもミスも許されない社会では人は生活していくことはできません。卑怯なこと、邪悪なこと、欺きはあってはなりませんが、ミスや過ちは攻めてはいけません。それは人だからです。

最近の日本の風潮が私にはとても窮屈で臆病な気持ちになるのを感じます。

弥生時代に中国で書かれた書物の「漢書」に「水清ければ魚棲まず」という言葉があります。何もかもシステマチックになって、ミスを嫌う社会は人の心を曇らすと思います。皆さんはどう思いますか？